

# 「今の時代・制度におけるはたらくことの支援とは」

～私の大切にしていること、コトバにしてみます～

所属社会福祉法人復泉会

社会福祉法人みどりの樹

NPO 法人地域生活応援団あくしす

大石影子

寺田志のぶ

堀米美紀

## 1、はじめに（今テーマの経緯）

昨年度までに、支援者としての在り方を見つめていく中で「現場力」というキーワードを見出し、検討してきました。

今年度の部会活動はその現場力を携えた支援者たる私たちが、いよいよ「障がいのある人たちのはたらくこと」とどう向き合っていくのかということに焦点を当てて企画立案することを主眼に議論を始めました。

進めていく中では、当然のように「はたらくことを支える」という概念や捉え方が多種多様であるという事実突き当たります。

そこで部会では、そのうえで多様な状況をカテゴライズしたり、是非を図ったりするのではなく、その概念や捉え方が形成された経緯に注目することにしました。

これは、それぞれの法人の成り立ちやこれまでの経緯、または今現在目の前にいる本人たちの特性やニーズ、地域から求められている期待や役割など、様々な要因によって形成され、地道ながら着実な実践の蓄積そのものが自分たちのアイデンティティであるはずだと考えたからです。

今回は、今現在「はたらくことを支える」ことにあたって、自分自身が大切にしていることを言語化し、共有します。ただし、その「コトバ」を掘り下げる際、込められている思いだけに留めず、その思いに至る経緯、醸成の過程に着目します。

また、その過程を振り返り、整理していく中での迷いや葛藤も価値として、解決に至らないまでも、それを払しょくするべく探求することも大切なこととして捉えていきます。

往々にして理想と現実には少なからずのギャップがあり、そのジレンマを抱えながら忙しく業務に追われる日々の中では、本来そういうときこそ立ち返るところすら見失いがちです。今回の報告で、大切にしたい思いを言語化するとともに、それを大切にしたいと思った自分自身を多角的に見つめ直す機会にし、参加される皆さん自身も考えるきっかけとなればと思います。

## 2、部会員からの報告

### ①復泉会 大石の場合

#### 「 私たちの職場、そして居場所 」

これまで法人内の様々な所属を経験してきました。ただ、同じ法人内とはいえ、障がいの特性や作業内容、または地域性も含めて「はたらく」支援としての向き合い方、考え方が本当にいろいろだと感じてきました。そんな中でも、自分自身が一貫して大事にしていきたいことはブレずに来ているつもりですが、自分の考えや思いが法人のそれと本当に馴染んでいるのか、少し迷いが生じていました。

今回を機に、今一度法人の設立経緯とこれまでの経緯を改めて見つめ直してみました。法人は砂漠のオアシスのような存在でありたいという思いからネーミングされており、自分なりのオアシスのイメージを描いてみることから、法人の思いに立ち返った、自分の大切にしたい気持ちというものを整理してみました。

## ②みどりの樹 寺田の場合

「『共にはたらく、傍らにいる』ということ」

これまで長く在籍していた部署が、就労移行と就労継続 B 型の多機能事業所で、今年 4 月より生活介護と就労継続 B 型の多機能事業への配置転換がありました。

法人の基本理念は理解し、そのうえで自分の大切にしたい言葉を形成しているつもりながら、実務上これだけ目の前にいる利用者像が変わるとこの状況にどう向き合っていけばいいか少し困惑していました。

また、配属された部署が新設されてまだ 2 年余りという法人の中でも一番歴史の浅い部署でもあるので、事業所としての特色、向かうべき方向などをきちんと整理していこうと考えたときに、まだまだ「みどりの樹っぽくなっていないな」と思う自分に気づきました。一体自分が思った「らしさ」とは何なのか、作業所であったこと、これまで自分が経験してきたことなどを振り返りながら点検・整理していきました。

## ③あくしす 堀米の場合

「A 型であることに誇りとこだわりを」

以前に比べて、仕事が楽しめていない自分がいます。それはなぜかを考えることをスタートにしてみました。

今年度から A 型の報酬体系が大きく変わり、且つ県の最低賃金もいよいよ 900 円台に突入するなど、関係する制度や情勢が刻々と変化しています。就労継続 A 型として、その先の一般就労に積極的につないでいく通過施設であるということをコンセプトにやってきましたが、この最近の流れの中で一般就労と A 型の明確な差別化がぼんやりし始めてきている自分に気が付きました。核になる大切にすべき思いは不変的でありながら、その体現方法や手段は状況に応じて変えていく必要があるのかと今も葛藤中です。

## 3、まとめ

「はたらくことの支援」に正解はありませんが、所属している法人の経緯や理念を丁寧に理解すること、ベースとして障がいのある方たちの権利擁護の視点で自己研鑽し続けること、そして今日の前にいる本人たちが描く「なりたい自分」を丁寧に受けとめ、支援者としてその実現のためにどうかかわるかを一生懸命考えること、これらを総合して、誰もがそれぞれに「はたらくことの支援」の正解を持ち、コトバにしておくことはとても重要ではないかと感じています。コトバ作りのうえでは、経験も踏まえた自分自身の価値観と、法人や団体としての設立経緯や理念、果たすべき使命といったものの融合が理想であると考えます。